

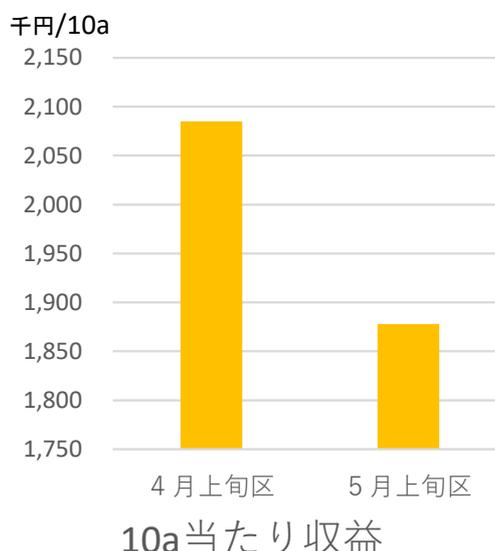
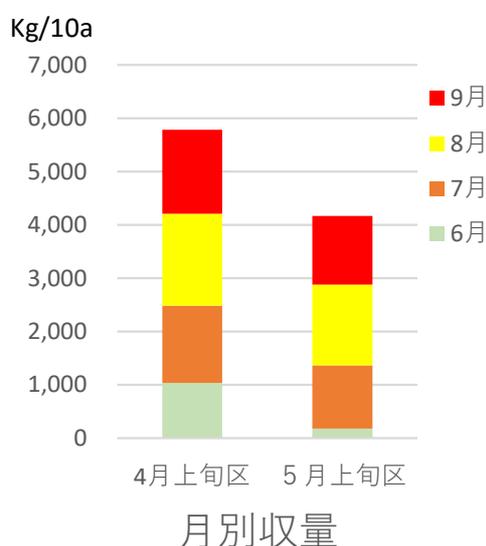
夏秋ピーマンの早期定植による収穫の前進化技術を開発しました

●背景・ねらい

- ①夏秋ピーマンは佐賀北部中山間地において、簡易ハウスを用い天井のみビニル被覆の雨よけ栽培が行われています。
- ②定植時期は晩霜の影響を受けにくい5月上旬であり、6月下旬から収穫開始で9月末までに約150万円/10aの収益が得られています。産地では、更なる収益の向上を目指し、定植時期の前進化による作期拡大が求められています。
- ③晩霜の回避技術として、簡易ハウスへのビニルの全面被覆による4月上旬に定植する早期作型を開発しました。

●研究の成果

- ①天井部分のみでなく、側面及び妻面もビニルで被覆した簡易ハウス内で定植することにより、4月上旬に定植した場合でも霜の害を受けません。
- ②4月上旬定植では、慣行の5月上旬定植より収穫開始が2週間程度早くなることで、6月上旬から収穫が始まり、6月の可販果収量が多くなります。
- ③収益は、4月上旬に定植した場合、5月上旬定植より約21万円/10a増加します。



収穫開始日 4月上旬区:6月7日 5月上旬区:6月23日

収益=販売金額-(ビニル代+ビニル開閉のための労賃)
(5月上旬区はビニル開閉のための労賃は必要なし)



左 ビニルの全面被覆の状況(換気のため裾を開けている) 右 ビニルの天井のみへの被覆の状況